

昭和60年 10月17日発行

元の1

No.49

泉南走ろう会

連絡先
泉南ホーベン社
07248・3・4653

“続 剣岳登山紀行”

会長 遠健三

太陽は昇った。森羅万象、生として生けるもの、統べての活動が始まるのだ。御来光を眺め、自然の雄大さに今更ながら感にうたづる。私は太陽の神アラームに敬度する祈りをささげた。タベコやめたあ、酒やめたあ」と、しかし周囲は無神論者のような人はかりながら、御祈りするやを止めた。さて、切角登、大服剣を今度は下ろすのである。そして、又登る。愈々慎重にならざるを得ない。私は登山に出發する少し前日の調度、このあたりで京都の学生はハイ松に躊躇、五日未就寝、死してから先に剣抜き雪と岩の殿堂だと記した、八月のこととて雪こそ少なむが、岩又岩、そしてカラ場だ。まだなあ、もう、私は金神経を集中して正確に、安全なルートを探す。前方に荒れい前剣の岩峰がたちだかる。そして遠くであるが、よく見てみると、赤いヤツケの人食事しながら、アルカスの全貌を、そして中央、

は、カニのタテベイと称する剣の難所を難なく越えたが、次の人は、もたついている。“何をもたつか、早く行かんか」と私が思ふ。岩を乗り越え、足元に注意し、前に前にと進む。愈々、私達も最初の鎖場に到着した。“三点支点を私は皆に指示する。ここで「ヘマ」をすると、一大惨事につながる。皆が私の指示通り登っているか心配だ。その場、その時にのぞんで、三点支持と言つて、のみこめないと思うが、皆が確實に登って來た。私はもカニの大ベイにたどりついた。私は又鎖は二点様に持つ、岩の角にひがかつて、いる鎖は二点様にと私が引張りビニールと伸びて來た。これは「ベイ」私は何度も鎖をがくと岩にぶつけ安全を確かめ、そしてよじ登る。岩の避難屋があり間もなく剣山頂だ、細心の注意を要する頂上が見えた。もう一息だ、なんじうほい頂上に到着する。二九九ハメ。頂からの展望がすばらしい。富山湾をはじめ、富山半島に広がるを得ない。私は登山に出发する度、前日の調度、このあたりで京都の学生はハイ松に躊躇、五日未就寝、死してから、一度の影色が見渡せない。そこで、写真を撮る。私は雨男であるが、今は何と言う事か、快晴である。あの台風は何處へ行ったのか。
さて、朝食、小屋の弁当である、どうも食べにくい。皆さん持参の副食を頂く事にするが、岩の上に包装紙を敷き、その上にヘルクを置いたためそれが滑り、煮豆、煮豆汁がニギニギに流れ、岩に沾ぬれ、盛る。どうすることもできない。私は今まであの光景を想像する事が出来ない、

南アルプスを眺める最高である。では、引返すとするか、今度は又別なるト、そこには難所中の難所、カニのヨリと鎖を引張る。北川さん「私は鎖嫌い鎖嫌い」と言つと、すぐ東野原さん「北川さん、カネ嫌いだが現金が好き」と補正する。方かい。出来たならず、今度来る時までにエスカレータと宣う。難所であったが通過してしまえば、スリルがあつて面白い。剣山荘に午前十時に引返した。快調なペースであった。でも登山道は、道と言ても土一握りもなく、岩場、ガレ場で苦労した。井上さんではないが、やつと地道を見つけて御前小屋を経て、ロジ立山連峰に向う。帰りは別ルートなため、ハイ松とお花畠が地に着くと「この事か」とほとすると。剣御前小屋を経て、ロジ立山連峰に向う。ある。そこ雷鳥の卵をガルソブに入れると、そこに雷鳥の親子連れ七匹を見た。その後、別ルートなため、ハイ松とお花畠である。そこ雷鳥の卵をガルソブに入れると、御前小屋を経て、ロジ立山連峰に向う。会話がしりとりと続く。ロジ立山連峰に到着。東野原さんの言う「これで純生、純湯泉である。温泉につかり、夏だと言つたので目刺を焼き、オクラ、玉ねぎ、ナズナ詰大蒲団を着て休むとする。とうに簡単に行かね、その前に宴会だ。部屋の中に行かね、その前に宴会だ。部屋の中で酒、ビール、ウイスキーと来る。こんな事をアーライ神に祈っておけばよかったです。

横で北川さんもうとくにスヤー／＼お休みだ。
コトナイ。翌日立山地獄谷を縦走だ。そして富山大阪へ剣岳登山が終った。前に紀行文終る。面白くもない文お読み下さいまして感謝します。来年はヒマラヤアラスカ、マッキンレーを計画しております。余り走る足腰を鍛えてやります。

杏んべえの登録隊長

遠 健三

御知らせ

例会日 十月二日(日)午前九時
新家公民館
コース・主旨と相談
マソン大会について

十月十日、紀州路マソン大会が実施されました。泉南亨う会より七名キロの部に参加されました。大会が加歌山であり、近くですが、当日車の混雑が予想されますので、会場へは電車バスを利用して行く恩いります。南海線の方、阪和線の方がお見えますか、国鉄石川駅を午前七時頃乗車予定、詳細は以下の相談して決めます。

ニース！



尚之ネットとブル位置は異なるため荷物はスタート地点より主催者がブル地点まで移送されるとの事です。それが為貴重品又余り多額な金持参しないで下さい。

九月二十二日芦屋国際マソン大会十キロの部に栗野原さん、そして遠参加いたしました。さすがに国際マソンだけあって、各種目十ターレル四百人程参加でした。さうう外入八十名程との事、コースはしやはや参ったなしも、往たり復したり右折左折車道あり歩道あり、しかもコンクリートアスファルト、石置ときた。また外に海岸の防潮堤とくる大変なコースでした。もう怒るより、これまでにしなければ十キロのコースといながたのかなあと思うと芦屋市に敬意を表します。帰りは天王寺ステーションで例の杯でした。